

## 奇跡の復興米の栽培に至った経過について



東日本大震災が発生した年の2011年10月に、津波により流され瓦礫となった岩手県大槌町安渡地区の自宅の玄関先から、3株の稲穂が奇跡的に見つかりました。発見したのは、そこに住んでおられた菊池 妙（きくち たえ）さんです。塩害を乗り越え育った「奇跡の復興米」を、翌年から栽培に取り組みされました。

栽培に協力されたNPO法人「遠野まごころネット」は、「大槌安渡（あんど）ひとめぼれ」と菊池 妙さんが命名されたこの米を、被災者が作る新たな復興のシンボルとして育てようと、種粃を岩手県内から出さないように門外不出とされてきました。

大阪府は岩手県、富田林市は大槌町とカウンターパートとして、震災後、土のう袋・給水袋・ボトル飲料水・ブルーシート・トラロープ等の支援物資を随時搬送し、支援活動を行ってきました。富田林市喜志地区にあるボランティア団体「喜翔会」も「復興支援和太鼓まつり」や「太成学院大学ソフトボール部とのイベント」などで物産の販売や募金活動を行い、復興支援活動に取り組む中で交流してきました。

その結果、東日本大震災の風化を防ぎ、岩手県大槌町と富田林市との「絆」を育むため



に、門外不出であった「大槌安渡（あんど）ひとめぼれ」「種粃 1kg」を2014年2月に震災後ボランティア活動に参加されていた、当時大阪府議会議員の吉村 善美市長に託されました。

栽培にあたり、JA大阪南・JA大阪南青壮年部・富田林市・喜翔会などの関係者で、富田林市「岩手県大槌町奇跡の復興米栽培委員会」を結成し2014年5月25日に、喜志地区の水田3アールにおいて、富田林市立喜志小学校の5年生の生徒と共に田植えを行い、9月14日に稲刈りを田植え同様に実施し、玄米150kgと粃種40kgを収穫しました。



## 2014年5月25日喜志地区田植え



## 2014年9月14日喜志地区稲刈り



収穫した米は、地域のイベント等や富田林市農業祭において、大槌町の関係を招待するとともに、募金活動や物産販売と震災パネル展示を行い、来場者に「おにぎり」を振舞いました。また、一日も早い復興への思いと収穫を祝い復興米の稲穂を、喜志地区の秋祭りの「だんじり」7台に飾り付け曳行しました。